

看護学生の社会的スキル, 自尊感情の変化

田原 和美・吉川 洋子・松本亥智江
松岡 文子・平井 由佳

概 要

10年前と比較して看護学生の社会的スキルや自尊感情について変化があるのか, 1999年度1年次生と2008年度1年次生の2群で, 和田(1992)のソーシャルスキル尺度改訂版とジャニスとフィールドの自尊感情尺度(SE測定尺度)日本語版に改定を加えた遠藤ら(1974)の尺度を用い比較した。

それぞれの尺度の合計得点, 下位尺度ごとの比較において有意差はみられず, 今回の比較では1999年度と2008年度の看護学生の社会的スキルと自尊感情に変化はなかった。その理由として, 青年期の特性の影響, 看護を学ぶ学生の特性, 用いた尺度による影響が考えられた。

キーワード: 社会的スキル, 自尊感情, 看護学生

I. はじめに

青年期は, 自分がこれまで身につけてきたスキルを見なおし, 自分の意思で自己の行動をコントロールできる存在として, 対人関係のストラテジーの再構築を図る時期である(齋藤ら, 1995)。しかし, 現代の青年は, 家族形態の変化やメディアの発達によって他者と直接的に関わる機会が減少している状況にあり, 社会や人の中で揉まれた経験が少ない。大坊(2003)は, 間接的, 限定的コミュニケーションによって, 十分な社会性を獲得できず, 責任性の希薄な関係となる可能性を指摘している。

社会的スキルは, 対人関係を円滑にするために役立つ技能をどれだけ身につけているかを示すものである。また, 自尊感情は人間の社会的行動, 例えば他者の表出に対する反応, 社会的参加を規定する重要な要因(遠藤, 1981)と考えられている。中谷ら(2006)は, セルフエスティームが高い人ほど対人コミュニケーション能力が高いと言っており, セルフエスティームが低い学生は対人関係スキルが低く, 人間関係が築きにくいと想定される。

看護は, 患者と看護者の対人関係を基盤として行われ, 人と相互作用をもちながら問題を解

決していく能力が求められる。このように対人関係を円滑に図っていく上で問われる社会的スキルやそれに影響をおよぼすとされる自尊感情は社会の変化を受けて看護学生において変化はあるのだろうか。これまでにも, 看護学生の社会的スキルに関する研究報告も行われている(林ら, 2002, 野崎ら, 2002)。方法として, 実習を通じての自尊感情の縦断的研究(原田ら, 2008)や, 看護学生と他学部の学生のスキルの違いについての研究(永田ら 1992, 野崎ら 1999, 吉川ら 2001)が行われている。

しかし, 10年前と比較してといった長い期間を経て比較したものは見あたらない。10年前と比較して社会的スキルや自尊感情について, 変化が起こっているのだろうか, 調査を行うことで学生理解や今後の教育を行う上での示唆が得られると考える。

II. 目的

看護学生の入学年度における社会的スキルおよび自尊感情について1999年度と10年後の2008年度を比較し, その変化を明らかにする。

Ⅲ. 研究方法

1. 対象

3年課程看護短期大学の1999年度1年次生69名、2008年度1年次生71名。

2. 調査時期

1999年6月～9月、2009年2月。調査時期が4～6ヶ月離れたが1999年に行った調査(吉川ら, 2001)において、学年間での有意差がなかったため、数ヶ月の違いは結果には影響がないと判断した。

3. 測定用具

1) 社会的スキルを測るために和田(1992)のソーシャルスキル尺度改訂版を使用した。これは関係開始6項目、関係維持4項目、衝突回避3項目、拒否2項目の4つの下位尺度で構成された25項目からなり、回答は「5:かなりあてはまる」、「4:ややあてはまる」、「3:どちらともいえない」、「2:あまりあてはまらない」、「1:ほとんどあてはまらない」の5段階である。得点が高いほどソーシャルスキルが高いことを示し、得点範囲は25点～125点である。

2) 自尊感情を測るために、ジャニスとフィールドの自尊感情尺度(SE測定尺度)日本語版に改定を加えた遠藤ら(1974)の尺度を使用した。これは、I. 他者からの評価を気にする9項目、II. 社会場面での不安6項目、III. 劣等感4項目、IV. 自己価値3項目4つの下位尺度で構成された23項目からなり、回答は「5:非常にしばしば思う」、「4:かなりしばしば思う」、「3:ときどき思う」、「2:たまに思う」、「1:ほとんど思わない」の5段階である。得点が高いほど自尊感情が高いことを示す。

4. 分析方法

尺度ごとに各回答者の合計得点を算出し、1999年度と2008年度における群別の平均値と標準偏差を算出した。2群において対応のないt検定を行った。さらに、下位尺度ごとの平均値と標準偏差を出した。2群において対応のないt検定を行った。いずれも有意確率は $P < 0.05$ とした。

分析に使用した統計ソフトはSPSSver.13を使用した。

5. 倫理的配慮

1999年度については公表されているものを用いた(吉川ら, 2001)。

2008年度1年次生に対しては、研究の趣旨を口頭と文書で説明し、研究への協力は自由意思によるものであることを説明した。さらに、以下の内容を説明した。

- ・本研究は教育課程に位置づくものではなく、研究協力の有無によって利益・不利益が生じるものではない。
- ・アンケートは無記名で個人は特定されない。
- ・アンケート回収は、直接手渡しではなく、提出場所を設置する。
- ・データは、施錠できる棚に厳重に保管し、研究終了後シュレッダーにより廃棄する。
- ・口頭、および誌上で発表する際は個人が特定されないように配慮する。
- ・アンケートの回収をもって同意が得られたとする。

Ⅳ. 結果

1. 社会的スキル

尺度の合計得点の平均値と標準偏差を表1に示す。1999年度は、79.39 (SD=7.22)、2008年度は、77.27 (SD=8.02)であった。2群の比較の結果、有意差はなかった。

下位尺度の構成とそれぞれの平均値と標準偏差を表2に示す。【関係維持】では、1999年度20.84 (SD=3.35)点、2008年度21.83 (SD=3.66)点であった。【関係開始】では1999年度11.3 (SD=3.63)、2008年度9.89 (SD=3.66)であった。【衝突回避】では、1999年度9.91 (SD=1.68)、2008年度10.25 (SD=1.91)であった。【拒否】では1999年度6.70 (SD=1.38)、2008年度6.46 (SD=1.38)であった。いずれも有意差はみられなかった。

質問項目で有意差があったのは、「新しい関係をつくるために、よく知らない人しかいないようなパーティや会合であっても出かける」の1項目で、1998年度平均値2.52、2008年度2.03と低くなっていた(表3)。

看護学生の社会的スキル、自尊感情の変化

表1 社会的スキル 合計得点の平均値と標準偏差

合計得点	平均点 ± 標準偏差	
	1999年度	2008年度
	79.39 ± 7.22	77.27 ± 8.02

表2 社会的スキル 下位尺度ごとの比較

下位尺度	平均点 ± 標準偏差	
	1999年度	2008年度
関係維持 (4. 9. 18. 19. 23. 24)	20.84 ± 3.35	21.83 ± 3.66
関係開始 (1. 6. 11. 16)	11.03 ± 3.63	9.89 ± 3.66
衝突回避 (10. 15. 20)	9.91 ± 1.68	10.25 ± 1.91
拒否 (7. 22)	6.70 ± 1.38	6.46 ± 1.38

()内は構成項目 イタリック体は逆転項目を示す

表3 社会的スキル 質問項目

質問項目	1999年度 (n=69)		2008年度 (n=71)		t値
	平均点 ± 標準偏差	平均点 ± 標準偏差	平均点 ± 標準偏差	平均点 ± 標準偏差	
1. 知り合いになりたいと思ったら、見ず知らずの人でも話しかける。	3.22 ± 1.17	2.86 ± 1.34	2.86 ± 1.34	2.86 ± 1.34	-0.98
2. 友だちの私への接し方が気に入らなければ、そのことを彼らに話す。	2.48 ± 1.08	2.28 ± 1.12	2.28 ± 1.12	2.28 ± 1.12	-0.88
3. 自分に関して恥ずかしいと思っていることでも、友だちに話す。	3.61 ± 0.99	3.15 ± 1.10	3.15 ± 1.10	3.15 ± 1.10	-0.92
4. 重要な人生決定、例えば進路選択や職業選択について、友だち自身の考えや気持ちを考慮して、その問題を切り抜けるのを援助することができる。	3.35 ± 0.74	3.49 ± 0.86	3.49 ± 0.86	3.49 ± 0.86	-0.63
5. 友だちとの不一致が喧嘩になり始めた時、たとえ自分が間違っていたとわかっていても素直に認めることができない。	2.57 ± 0.96	2.31 ± 1.18	2.31 ± 1.18	2.31 ± 1.18	-0.05
6. 新しい関係を作るために、よく知らない人しかいないようなパーティや会合であっても出かける。	2.70 ± 1.44	2.03 ± 1.10	2.03 ± 1.10	2.03 ± 1.10	-2.49 **
7. 私がしたくないことを頼んできた時、たとえその人が恋人や友だちであっても「いや」と言える。	3.39 ± 1.18	2.96 ± 1.15	2.96 ± 1.15	2.96 ± 1.15	-0.76
8. 新しい友だちに“本当の自分”を知らせる。	3.20 ± 1.04	2.80 ± 1.06	2.80 ± 1.06	2.80 ± 1.06	-1.50
9. 友だちが家族やクラスメートの問題に対処するのを助けることができる。	3.36 ± 0.77	3.66 ± 0.81	3.66 ± 0.81	3.66 ± 0.81	-0.14
10. 喧嘩になっても友だちの立場になり、彼らの考え方も理解することができる。	3.42 ± 0.86	3.59 ± 0.95	3.59 ± 0.95	3.59 ± 0.95	-0.02
11. 知り合いになりたいと思っても、話しかけるきっかけを見いだすのがむずかしい。	2.59 ± 1.22	2.52 ± 1.19	2.52 ± 1.19	2.52 ± 1.19	0.63
12. 他者に傷けられた時でさえ、私はそのことを口に出して言えない。	2.75 ± 1.02	2.94 ± 1.33	2.94 ± 1.33	2.94 ± 1.33	-0.32
13. 互いに本当の友だちになるには、話の内容をどのように深めていけばよいのかわからない。	2.65 ± 1.10	2.81 ± 1.09	2.81 ± 1.09	2.81 ± 1.09	0.46
14. 他者との関係についての友だちの“うっぶん晴らし”を忍耐強く聞くことができる。	3.81 ± 0.91	3.94 ± 0.95	3.94 ± 0.95	3.94 ± 0.95	1.61
15. 人柄を非難することなく、友だちとの間で生じた問題を切り抜けることができる。	3.19 ± 0.83	3.15 ± 0.80	3.15 ± 0.80	3.15 ± 0.80	-0.72
16. デートしたいと思った人に、自分を売り込むことができる。	2.52 ± 1.30	2.48 ± 1.14	2.48 ± 1.14	2.48 ± 1.14	0.81
17. 約束を破られたら、たとえ親しい友だちでも怒りを表す。	3.41 ± 1.02	2.94 ± 1.23	2.94 ± 1.23	2.94 ± 1.23	-0.68
18. 自分の防衛的な壁を取り払って、友だちを信用することができる。	3.32 ± 1.02	3.24 ± 0.99	3.24 ± 0.99	3.24 ± 0.99	-0.56
19. 友だちが落ち込んでいる時、支援するために何かを言ったり、してあげることができる。	3.87 ± 0.75	4.11 ± 0.75	4.11 ± 0.75	4.11 ± 0.75	1.30
20. 友だちに腹を立てた時、たとえその考えに同意しなくても、彼らが妥当な考え方をしていることを受け入れることができる。	3.30 ± 0.79	3.51 ± 0.84	3.51 ± 0.84	3.51 ± 0.84	-0.84
21. 知人同士二人が話している中に、私はうまく加わることができない。	3.16 ± 1.17	3.10 ± 1.17	3.10 ± 1.17	3.10 ± 1.17	0.21
22. 私は、人から頼まれると「いや」と言えない。	2.94 ± 1.11	2.56 ± 1.16	2.56 ± 1.16	2.56 ± 1.16	-0.98
23. 何に悩み、不安がっているかについては、親しい友だちにもめったに話さない。	3.58 ± 1.29	3.48 ± 1.29	3.48 ± 1.29	3.48 ± 1.29	-0.54
24. 友だちの問題と言えども関心がなければ、私は純粋に同情的な関心を示すことができない。	3.36 ± 0.98	3.85 ± 1.02	3.85 ± 1.02	3.85 ± 1.02	-0.88
25. 反対意見を述べると、喧嘩になりそうなら、それを言うのを控えることができる。	3.64 ± 1.07	3.73 ± 1.12	3.73 ± 1.12	3.73 ± 1.12	0.75

イタリック体は逆転項目を示す **p<0.01

2. 自尊感情

尺度の合計得点の平均値と標準偏差を表4に示す。1999年度は76.77 (SD=16.44), 2008年度は78.20 (SD=14.36)であった。有意差はみられなかった。

下位尺度の構成とそれぞれの平均値と標準偏差を表5に示す。【他者からの評価を気にする】では、1999年度 29.17 (SD=7.50), 2008年度 30.28 (SD=7.69)であった。【社会場面

での不安】では、1999年度 20.17 (SD=5.69), 2008年度 19.66 (SD=4.88)であった。【劣等感】では1999年度 12.59 (SD=3.57), 2008年度 13.23 (SD=3.65)であった。【自己価値】では1999年度 1年次生11.20 (SD=2.64), 2008年度 11.07 (SD=2.59)であった。いずれも有意差はみられなかった。

質問項目で有意差があったのは、「あなたの友だちや知り合いの中に、あなたのことをよく

表4 自尊感情 合計得点の平均値と標準偏差

合計得点	1999年度	76.77 ± 16.44
	2008年度	78.20 ± 14.36

表5 自尊感情 下位尺度ごとの比較

	1999年度	平均点 ± 標準偏差	2008年度	平均点 ± 標準偏差
他者からの評価を気にする (9, 10, 14, 15, 17, 19, 21, 22, 23)	1999年度	29.17 ± 7.50	2008年度	30.28 ± 7.69
社会場面での不安 (11, 12, 13, 16, 18, 20)	1999年度	20.17 ± 5.69	2008年度	19.66 ± 4.88
劣等感 (1, 5, 6, 8)	1999年度	12.59 ± 3.57	2008年度	13.23 ± 3.65
自己価値 (2, 3, 7)	1999年度	11.20 ± 2.64	2008年度	11.07 ± 2.59

()内は構成項目 イタリック体は逆転項目を示す

表6 自尊感情 質問項目

	1999年度 (n=69)		2008年度 (n=71)		t値
	平均点 ± 標準偏差	平均点 ± 標準偏差	平均点 ± 標準偏差	平均点 ± 標準偏差	
1. あなたが知っている大部分の人々に比べて、自分の方が劣っていると感じるようなことはありますか。	3.61 ± 1.10	3.75 ± 1.07	1.48		
2. あなたは、自分が価値ある人間であると感じていますか。	3.55 ± 1.14	3.44 ± 1.08	-1.00		
3. あなたは、自分の知っている人々が、いつかはあなたを尊敬の眼をもって、仰ぎ見る日があると確信していますか。	4.10 ± 0.96	4.04 ± 1.18	0.80		
4. あなたは、自分の過誤(ミス)は自分のせいだと感じる事が、どのくらいありますか。	3.62 ± 0.91	3.94 ± 0.81	-0.74		
5. あなたは、自分について落胆するあまり、何がいったい価値あるものだろうと、疑いをおぼえることがありますか。	2.93 ± 1.24	3.08 ± 1.35	0.72		
6. あなたは、自己嫌悪を覚えること(自分で自分がいやになること)がありますか。	3.58 ± 1.21	3.82 ± 1.19	1.16		
7. 一般に、あなたは自分のいろいろの能力について、どのくらい自信を持っていますか。	3.55 ± 0.99	3.59 ± 1.04	-0.96		
8. あなたは、自分にうまくやれることなど全然ないといった気持ちになることが、どのくらいありますか。	2.48 ± 1.21	2.63 ± 1.18	-0.39		
9. あなたは、自分が他の人々とどのくらいやってゆけるかどうかについて気にしますか。	3.16 ± 1.35	3.38 ± 1.13	1.51		
10. あなたは、あなたの仕事ぶりや成績を審査する立場にある人の批評をどのくらい気にしますか。	3.57 ± 0.85	3.61 ± 1.02	0.57		
11. あなたは、他の人々がすぐ集まって話し合っている部屋に自分一人で入っていくような場合、気兼ねや不安をおぼえますか。	3.74 ± 1.16	3.83 ± 1.06	1.29		
12. あなたは、人前を気にしたり、はにかみをおぼえることがありますか。	3.64 ± 1.11	3.79 ± 1.08	1.64		
13. あなたは、クラスや自分と同年輩の人々のグループの前でしゃべらなければならないとき、心配したり、不安に思ったりしますか。	3.61 ± 1.25	3.25 ± 1.34	1.11		
14. 他の人々が観ているところで、ゲームやスポーツをやっており、それにぜひ勝とうと思っている場合、あなたは普通どのくらいどろりしたり、まごついたりあがったりしますか。	3.16 ± 1.23	2.92 ± 1.22	-1.84		
15. 他の人々から、あなたが優等生とみられているか、あるいは劣等生とみられているかということについて、あなたは気になりますか。	2.52 ± 1.35	2.41 ± 1.27	-0.87		
16. 人と一緒にいるとき、あなたはどんなことを話題にしたらいかがについて、困りますか。	2.90 ± 1.26	2.90 ± 1.04	1.83		
17. どんでもないミスや、ばかにされるような大失敗をしかしたとき、あなたはどのくらい長く、そのことを気にしますか。	3.48 ± 1.23	3.82 ± 1.14	0.66		
18. あなたは、初対面の人に会ったとき、時間つぶしに話しをするのが難しいですか。	3.17 ± 1.42	3.01 ± 1.16	0.34		
19. 他の人があなたと一緒にいることを好んでいるかどうかについて、あなたは気にしますか。	3.65 ± 1.17	3.72 ± 1.23	1.74		
20. あなたは、恥ずかしくてどうにもならないと思うことがありますか。	3.12 ± 1.16	2.87 ± 1.25	-0.46		
21. 自分の意見に同意しない人々を説得している場合、あなたは自分が相手にどのような印象を与えているかということが、気になりますか。	2.96 ± 1.17	3.14 ± 1.27	1.14		
22. あなたの友だちや知り合いの中に、あなたのことをよく思っていない人がいるかもしれないと考えるとき、あなたはそれをどのくらい気にしますか。	3.19 ± 1.29	3.62 ± 1.22	2.46 **		
23. 他の人があなたのことをどのように考えているかということが、あなたはどのくらい気になりますか。	3.49 ± 1.18	3.68 ± 1.20	1.51		

イタリック体は逆転項目を示す **p<0.01

思っていない人がいるかもしれないと考えるとき、あなたはそれをどのくらい気にしますか」の1項目で1998年度3.12、2008年度3.62と高くなっていた(表6)。

V. 考察

1999年度と2008年度の看護学生の社会的スキル、自尊感情の合計得点、下位尺度毎の得点に

おいて、有意な差はなく明らかな変化は認めなかった。その理由として、調査対象とした学生の年代による特性、集団の特性、用いた質問紙の影響が考えられる。

まず、年代による特性について、看護学生は、青年期における自我同一性の確立という人間性の発達途上にある。対人関係を円滑にするための技能や他者との比較によって優越感や劣等感を感じるのではなく、自分自身について「こ

れでよい」と尊重や価値を評定する程度つまり自尊感情は揺れ動き、不安定な年代であると考えられる。青年期のもつ特性の影響が大きく反映していると言える。原田ら(2008)が看護学生を対象に臨地実習各期の自尊感情測定においても有意差はみられていない。

また、対人関係を基盤とする職業をめざす学生集団において、社会的スキルや自尊感情において一定のレベルをもった者が入学していることが考えられる。

さらに、今回用いた質問紙が適切なものであったのか。社会的スキルや自尊感情を知るために多くの尺度が開発されている。10年前と比較するために同様の質問紙を用いたが、社会的スキルや自尊感情を知るうえでより適切な尺度についても検討していくことが必要である。今回社会的スキルに和田のソーシャルスキル尺度(和田, 1992)を使用した。この尺度は青年期にある者を対象としており、下位尺度が「関係開始」「関係維持」「衝突回避」「拒否」で構成され、他者との関係の開始、維持、終了といった過程に沿っていて、どこに課題があるのかをつかみやすいと考えたが、信頼性係数がやや低い(和田, 1992)など課題をもっている。他に社会的スキルとして、KiSS-18(菊池, 1988)がある。これは包括的な社会的スキルを身につけている程度を測定する尺度とされ、尺度の信頼性係数が高い結果が出ている。研究目的に合致した尺度選択の考慮が重要である。

VI. 結論

3年課程看護学生で入学年度の学生を対象に社会的スキル、自尊感情を1999年度、2008年度の2群について比較した。2群の合計得点、下位尺度得点の平均値と標準偏差を算出し、t検定を行った結果、有意差はなかった。その理由として、青年期の特性の影響、看護を学ぶ学生の特性、用いた尺度による影響が考えられた。

謝辞

本研究を実施するにあたり、調査にご協力頂きました学生のみなさまに深く感謝いたします。

引用文献

- 相川充, 藤田正美(2005):成人用ソーシャルスキル自己評定尺度の構成, 東京学芸大学紀要1部門, 56, 87-93.
- 相川充, 津村俊充(1996):社会的スキルと対人関係:自己表現を援助する, 誠信書房, 東京.
- 遠藤辰夫, 安藤延男, 冷川昭子, 井上祥治(1974):Self-Esteemの研究, 九州大学教育学部心理学部門紀要, 18(2) 53-65.
- 林稚佳子, 横田恵子, 高間静子(2002):富山医科薬科大学看護学会誌, 4(2), 59-75.
- 谷村圭介, 渡辺弥生(2008):大学生におけるソーシャルスキルの自己認知と初対面場面での対人行動との関係, 教育心理学研究, 56(3), 364-375.
- 中谷有花, 井上毅, 宮田仁(2006):セルフエスティームと対人コミュニケーション能力及び対人欲求の関連について, 日本教育情報学会第22回年回, 282-283.
- 野崎智恵子, 布佐真理子, 三浦まゆみ, 千田睦美(2002):1年間の経過からみた看護大学生の社会的スキルと自己効力感, 生活体験の関連, 東北大学短部紀要, 11(2), 237-243.
- 大坊郁夫(2003), 社会心理学からみたコミュニケーション研究-対人認知を読み解く-, 社会言語科学, 6, 122-137.
- 齋藤耕二, 菊池章夫(1995):社会化の心理学ハンドブック, 川島書店, 東京, 89.
- 上田吉一(1993):精神的に健康な人間, 川島書店, 東京.
- 和田実(1992):ノンバーバルスキルおよびソーシャルスキルの改訂, 東京芸術大学紀要第1部門, 43, 123-136.
- 吉川洋子, 飯塚雄一, 長崎雅子(2001):女子学生の社会的スキルと自尊感情およびセルフモニタリングとの関連, 島根県立看護短期大学紀要, 6, 97-103.

田原 和美・吉川 洋子・松本亥智江・松岡 文子・平井 由佳

The Transformation of the Nursing Student's Social Skill and Self-Esteem

Kazumi TAWARA, Yoko YOSHIKAWA, Ichie MATSUMOTO, Ayako MATSUOKA and Yuka HIRAI

Key Words and Phrases : social skill, self-esteem, nursing students